



子どもの本・子どもの文化の未来を拓くために

理事長 宮川健郎

新型コロナウイルスの感染がおよまらないうつがつついています。皆様は、不安や不自由をかかえ、心落ち着かない日々を送っていらっしゃると思います。それでも、お元気でいらっしゃることを願います。

さて、一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団は、二〇二〇年に吹田市万博公園内の大阪府立国際児童文学館が廃止されたあと、大阪府立中央図書館内に事務所を移転し、再スタートしてから十年になりました。新たにオープンした大阪府立中央図書館国際児童文学館と連携、協力しながら、子どもの本・子どもの文化の振興をめざして、いろいろな活動を展開してきました。あたかも荒海に漕ぎ出す小船のような子どもの財団でしたが、十年間、何とか航海をつづけてこられたのは、応援してくださる皆様や関連諸団体の皆様のおかげです。深く感謝申し上げます。

子どもの本の普及活動、教材開発を通じた子どもの読書活動の推進、子どもの本を通じた国際交流事業、研究・出版活動など、この十年間、財団は、成果を積み上げてきました。一般財団法人 金蘭会と共催の「国際グリム賞」も今年度は一八回めの選考にかかります。日産自動車株式会社協賛の「日産童話と絵本のグランプリ」は第



三七回の作品を募集しています。研究紀要は、第三号を刊行しました。

しかし、財団の経営については、困難な状況がつついています。移転前までの国際児童文学館の運営委託費がゼロになったため、組織を大はばに縮小して、かつての寄付金を取り崩しながら現在に至っています。二〇一七年度、二〇一八年度は七〇〇万円台の赤字決算でした。二〇一九年度は、もう少し回復していますが、経営のありかたが根本的に改善されたわけではありません。この状態がつつけば、十年後には財団はもう存続できない——私もスタッフは危機感を強めております。

財団の経営危機を抜け出し、子どもの本・子どもの文化の振興にかかわる活動をより豊かにしていくにはどうしたらよいか。収益事業に関しても様々な努力をしていますが、再スタート十周年の機会に、財団は、広く寄付をお願いする予定です。

子どもの本・子どもの文化の未来を拓くことは、この国の未来を創造することにほかなりません。ぜひとも財団の今後の存続可能性を見出したい、財団の新しい十年を創り出したい——それが私の思いです。皆様のご支援、ご協力を心からお願ひ申し上げます。

第17回国際グリム賞 三宅興子教授が受賞

国際グリム賞は一般財団法人金蘭会および大阪府立大手前高等学校同窓会金蘭会との共催で、国際的分野で児童文学界に貢献した研究者に対し、隔年で贈られる賞です。

第17回の令和元年度は、梅花女子大学名誉教授で、当財団特別顧問の三宅興子教授が受賞され、授賞式と記念講演会を行いました。

■日 時：令和元年11月9日(土) 14時～16時
■場 所：国民會館武藤記念ホール
■受賞者：三宅興子教授
■演 題：イギリス児童文学
再構築論を通して、
日本児童文学を再考する

■参加者：176人
〈授賞理由〉
三宅興子教授は、国際的な児童文学、絵本の優れた研究者であり、多様で国際的な児童文学研究活動を組織・運営してこられました。児童文学史、比較児童文学、英語圏の児童文学研究、日本における世界の児童文学の受容、絵本研究、読者研究等の学術的な研究によって、児童文学研究の促進と発展に多大な貢献があります。その中には、日本初のイギリス絵本の通史『イギリスの絵本の歴史』(1993年)や、『もうひとつのイギリス児童文学史』(2004年)などがあります。

また、多くの研究プロジェクトも立ち上げ、イギリスでの日本の絵本原画展の開催(2001年)

など、児童文学普及のため、国際的にも活動されています。

そして、長年にわたり、大学、大学院での研究指導を行い、絵本学会会長、日本イギリス児童文学会(現英語圏児童文学会)会長を歴任し、大阪国際児童文学振興財団の創立から評議員として関わり、2010年～2015年理事長を務められました。

〈講演の概要〉

大谷女子短期大学時代に論文『ダロウエイ夫人とV・ワルフの童話を書かれたところから始めて、研究のありようを模索しながら幅広い研究をされてきた道筋を話されました。

その中で、「研究対象は『児童文学』なのか『子どもの本』なのか」「日本における英米児童文学史の受容の問題点」という課題をもって研究に取り組んできたことを述べられ、今後の研究のありようについても問題提起をされました。

第17回 国際グリム賞



主催 (一財)大阪国際児童文学振興財団・(一財)金蘭会・大阪府立大手前

韓国の絵本作家 パクジョンチエさん来日

世界で注目されている絵本作家の一人であるパクジョンチエさんが来日し、講演会では太鼓をたたきながら絵本を朗読し、映像を交えて自作について語りました。また著書「ヒキガエルがいく」(岩波書店2019年)の翻訳者である申明浩さん、広松由希子さんとの鼎談によって、パクジョンチエ作品の魅力に迫りました。翌日には、パクさんのお話を聞いて絵本をつくる小学生向けワークショップを行いました。

▲国際講演会▼

「韓国の絵本作家パクジョンチエの絵本を語る」

■開催日：令和元年7月20日(土)
■場 所：大阪府立中央図書館
■講 師：パクジョンチエさん、
広松由希子さん、申明浩さん(通訳も含む)

▲ワークショップ▼

■参加者：61人
「絵本作家パクジョンチエさんと絵本をつくる」

■開催日：令和元年7月21日(日)
■場 所：大阪府立中央図書館
■講 師：パクジョンチエさん
■通 訳：申明浩さん
■参加者：13人



■主 催：当財団
協 賛：サントリーホールディングス株式会社、株式会社富士通システムズアプリケーション&サポート、ムサシ・アイ・テクノ株式会社

*子どもゆめ基金助成活動
○報告集を販売しています
(1000円・税別)

紙芝居の歴史から 子どもの読書文化について 考える



戦前から現在まで子どもに人気のあるメディアであり、子どもたちに多様な物語体験を提供してきた紙芝居を歴史的に見ながら物語体験と読書文化との関わりについて考える講演会を実施しました。

▲講演会▼

「紙芝居の歴史から子どもの読書文化について考える」

■開催日：令和元年11月30日(土)
■場 所：大阪府立中央図書館
■講 師：浅岡靖央さん(児童文化研究者、白百合女子大学教授)

■参加者：52人
■主 催：当財団
■講 演：子どもゆめ基金助成活動
○報告集を販売しています
(800円・税別)

連続講座 「目で見るイギリス児童文学の歴史」

講師が所蔵するイギリス児童文学に関する貴重なコレクションを紹介しながら、イギリスの子どもの本の歴史についてご講演いただく連続講座を実施しました。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、第1回のみ予定通りに開催し、第2、3回は次年度7月に延期して開催しました。



◆第1回 令和2年1月25日(土)
「最初のイギリスの子どもの本から始めて」

◆第2回 令和2年7月5日(日)
「子どもの本の『第一次黄金時代』」

◆第3回 令和2年7月5日(日)
「20世紀イギリスの子どもの本」

■場 所：大阪府立中央図書館
■講 師：三宅興子(当財団特別顧問、梅花女子大学名誉教授)

■参加者：のべ123人(ビデオ視聴含む)

■主 催：当財団
*子どもゆめ基金助成活動(第1回)
○報告集を販売しています
(1400円・税別)

国際アンデルセン賞の 国際選考委員に就任

当財団理事で日本国際児童図書評議会(JBBY)理事の土居安子総括専門員が、国際児童図書評議会(IBBY・本部スイス)が行う2020年国際アンデルセン賞の選考委員に就任し(2期目)、1月にドイツ・ミュンヘンで行われた選考委員会に参加しました。

「国際アンデルセン賞」は、2年に一度、子どもの本の世界に貢献した画家及び作家を対象に贈られる賞で、受賞者を決定する選考委員会は、アルゼンチン、エジプト、オーストラリア、カナダなど世界各国の10人で構成されています。

のりものだいすき おはなしだいすき

貸切モノレールの中で絵本やおはなしを楽しみ、彩都西の会場で人形劇を観る「おはなしモノレール」を実施しました。令和元年度で13回目となります。

■開催日：令和元年9月21日(土)
■定 員：240人
■出 演：職員、おはなしポップ、人形劇サークルぱれっと等
■協 賛：大阪モノレール、阪神不動産株式会社、株式会社ベネッセコーポレーション

*子どもゆめ基金助成事業



日産 童話と絵本のグランプリ

アマチュア作家を対象にした創作童話と絵本のコンクール「第36回日産童話と絵本のグランプリ」を実施しました。審査の結果、入賞作品38編を決定しました。

○応募数 童話の部2044点、
絵本の部358点 計2402点
○童話の部 大賞
「なすびはなに色？」

山本 泉さん

○絵本の部 大賞
「くじゃさんとおぼけ」
いわさき さとこさん
○表彰式は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止しました。
協 賛：日産自動車株式会社

また、第35回童話の部大賞および絵本の部大賞作品をB1出版から令和元年12月に出版しました。

童話の部 『くじゃくへ』



水尻 紅美子/作
たなか やすひろ/絵



松丘 コウ/作

子どもに本を 手渡す人のために

●講座への講師派遣

子どもの読書活動にかかわるボランティア、司書、学校司書、教員、保護者や子どもの本に関心のある人等を対象とした、本の選び方や読書活動のあり方に関する研修や、本の楽しさを伝える講座、講演会、読書会の講師として、総括専門員、特別専門員を派遣しました。
・実施回数：43回

●**気になる本を読む会**

大阪府域の学校司書とともに、選書をはじめとする学校図書館活動に関わる研究会を実施しました。

- ・登録者数：26人
- ・実施回数：11回

●**審査員・委員など**

左記の事業に、審査員や委員として参加しました。

- ・第15回大阪こども「本の帯創作コンクール」
- ・第29回賞面手づくり紙芝居コンクール審査員(箕面市教育委員会・人と本を紡ぐ会)
- ・令和元年度「心の輪を広げる体験作文」審査(大阪府福祉部)
- ・第38回人権啓発詩・読書感想文審査会(大阪府民文化部)
- ・「コープのえほんでスマイル」専門委員会(大阪いずみ市民生活協同組合)

子どもたちに
おはなしの楽しさを

●**大阪府立中央図書館との連携**

大阪府立中央図書館こども資料室でおはなし会6回、人形劇1

回を開催しました。
出演：職員、おはなしポップ、人形劇サークルぱれっと



●**小学校や図書館でのおはなし会やワークショップ**

- ・吹田市立山田駅前図書館でのおはなし会(2回)
- ・出演：職員、おはなしポップ
- ・豊中市立東丘小学校等での小学生を対象とした、物語体験ワークショップ(5回)
- ・国立国際美術館「ちっちゃなこどもびじゅつあー」

●**児童養護施設でのおはなし会**

大阪府域の児童養護施設でおはなし会を開催しました。
おはなし会1回
出演：おはなしポップ

YouTubeをはじめました!
〈大阪国際児童文学振興財団
公式チャンネルIICLO〉

令和2年4月、YouTube公式チャンネルを開設しました。
「YouTube版 本の海大冒険」(絵本編、読物編、YA編、科学編)は、毎週金曜日に、大人向けに紹介する「新刊子どもの本 ここがオススメ!」は、毎月10日に配信中!ぜひご覧ください。チャンネル登録もお願いいたします。

◆財団ホームページに、公開内容一覧を用意しています。一覧からYouTubeの動画へリンクしています。



●**「日中韓子ども童話交流2019」**

日本、中国、韓国の子もたちと一緒に絵本作りをしました。
開催日：令和元年8月17日(土) 23日(金)

場所：北京(中国)
参加者：100名
主催：日中韓子ども童話交流実行委員会

●**街頭紙芝居の実演**

「むかしの紙芝居を楽しもう」
開催日：令和元年10月5日(土)
場所：大阪府立中央図書館
出演：一般社団法人 塩崎おとぎ紙芝居

主催：大阪府立中央図書館 国際児童文学館、当財団 法人 一般社団法人 塩崎おとぎ紙芝居 博物館
協 力：大阪府立中央図書館 国際児童文学館、当財団 法人 一般社団法人 塩崎おとぎ紙芝居 博物館



●**「おはなしポップ」と「人形劇サークルぱれっと」の財団事業への参画**

子どもと本をつなぐさまざまな事業に当財団所属のボランティアグループに参画していただきました。
また、「おはなしポップ」は、絵本やおはなしに関する研修を3回、「ぱれっと」は講師を招いた研修を1回行いました。

●**「ほんナビきつず」**

子どもの本をあらゆるキーワードから探す

「ほんナビきつず」はインターネットで楽しく遊びながら、ことばや感情を選ぶことによってお気に入りの本に出会うシステムです。
キーワード、あらすじは当財団で独自に作成。令和元年度は1616冊の本を追加しました。

●**本の海大冒険の充実**

共同開発：株式会社富士通システムズ アプリケーション&サポート

平成26年度にリニューアルしたインターネットで読みたい本が探せるサイト「本の海大冒険」に新刊図書のデータを追加し、いっそうの充実を図りました。
協力：株式会社ジャスティス

●**ドキドキ絵本Vector Kids**

平成25年度に開設した、インターネットを見ながら絵本の作り方を体験することができるウェブサイトに「ドキドキ絵本づくり for Kids」について、チラシの配布や、ワークショップ等を通して普及を行いました。
協力：株式会社ジャスティス

●**マンガのひみつ大冒険!**

平成28年度に開設した「マンガのひみつ大冒険!」は、子どもと子どもに読書をすすめる大人を対象に、マンガを通して読書の楽しさや広がり、インターネットで検索したり、遊んだり、体験しながら知ることのできる読書活動支援ソフトです。
協力：株式会社ジャスティス

●**ツイッターでつぶやいています**

平成29年7月からツイッターで営業日は毎日、いろいろな情報を発信しています。ぜひ、フォローしてください。
https://twitter.com/IICLO_News

内容もりだくさん!
メルマガ発行、ぜひ会員登録を

毎月メルマガガジンを発行しています。発行は、月1回、毎月20日頃に配信しています。登録は無料です。皆さまの登録をお待ちしています。
令和2年8月20日現在、登録数は3386人です。内容例は左記のとおり。

- 1 お知らせ
財団からのお知らせコーナー
- 2 コラム
専門職員が理事長、児童文学者と毎月一冊の本を選んで対談します。本に対する新しい見方が発見できます。
- 3 新刊書の紹介
宮沢賢治作品などについて興味深いポイント、理事長と専門職員が交互に紹介します。
- 4 子どもの本の珠玉のことは
子どもの本や児童文学の評論書にある、印象深い言葉を紹介するコーナーです。
- 5 行って来ました!
展覧会や映画、講演会など、子どもの文化に関わる催しのレポート
- 6 全国のイベント紹介
他団体等が実施するイベントを紹介
- 7 プレゼント
今号でとりあげた本やイベントグッズを抽選でプレゼントします。

子ども読書活動の推進のために

●大阪府子ども読書活動推進施策への協力

大阪府が推進する「第3次子ども読書活動推進計画」に基づき、子ども読書活動に関わる他の団体・組織とともに、府内の子ども読書活動推進に努めました。

具体的には「子ども読書活動支援講習会 講座『すべての子どもに本を』(令和元年10月1日、大阪府立大学・Saraならばカンファレンスルーム)の講師を務めました。

共同研究を行いました

●大正期における児童出版文化史の研究―実業之日本社の果たした役割―

大正期の児童出版文化についての調査研究を外部研究者とともに行いました。

・研究会の開催(3回)

- 研究メンバー：浅岡靖央(白百合女子大学教授)、香川雅信(兵庫県立歴史博物館学芸課長)、柿本真代(愛媛大学講師)、酒井昂代(愛知淑徳大学教授)、松本育子(刈谷市美術館館長代理)、日黒強(神戸大学准教授)、宮川健郎(当財団理事長、武蔵野大学名誉教授、遠藤純(当財団特別専門員)／武庫川女子大学准教授)、小松聡子(当財団特別専門員)、土居安子(当財団総括専門員・研究代表者)
- *独立行政法人日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 平成29～令和元年度

●近現代日本の社会運動組織による「スクリーンメディア」活用

昭和期のスクリーン・メディア

についての調査研究を外部研究者とともに行いました。

・研究メンバー：アニー(日本映画

- 大学特任教授、岡田秀則(東京国立近代美術館主任研究員)、紙屋牧子(東京国立近代美術館研究員)、鳥羽耕史(早稲田大学文学部准教授、吉原ゆかり(筑波大学准教授)、土居安子(当財団総括専門員)、鷲谷花(当財団特別専門員・研究代表者)
- *独立行政法人日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 平成30～令和2年度

論文集

「大阪国際児童文学振興財団 研究紀要」第33号の発行

今号も、大阪府立中央図書館国際児童文学館の資料を活用した研究論文を公募しました。6編の応募があり、3編を採用しました。

目次

大正期における通俗教育にみる課外読み物の統制

目黒 強

雑誌「少年」(時事新報社) 細目(八

遠藤 純

「日本少年」の読者投書欄

―他誌との比較を通して―

土居安子

『エンゲリン讀本』における邦訳されたグリム童話とドイツ伝説

―初出の邦訳を中心に―

小泉直美

【研究ノート】

『幼年の友』『小学女生』『少女の友』の表紙絵からみた視覚表現

―大正期を中心に―

松本育子

中村忠一著『岩樺舟夜話』に見る「赤い鳥」の影響

神谷磨利子

昭和戦前・戦中期の児童読物調査に見る漫画受容

宮本大人

〈科学研究費補助金研究活動報告〉

大正期における児童出版文化史の研究―実業之日本社の果たした役割―

二宅興子

出版や展示の企画を行いました

「進研ゼミ電子図書館まなびライブラリー」

貴重な資料の複製や作家選集、論文集など児童文学・児童文化に関する各種出版事業の相談に応じています。

●「進研ゼミ電子図書館まなびライブラリー」

株式会社ベネッセコーポレーションから受託し、選書の支援を行いました。

●出版社等による企画協力業務の受託「コープのえほんでスマイル」

大阪いずみ市民生活協同組合から受託し、絵本選定、ガイドブック原稿作成を行いました。

資料を販売しています

●財団発行資料

- ・『2019・2020年度連続講座報告集「目で見えるイギリス児童文学の歴史」(二宅興子) 1400円

『2019年度講演会報告集「紙芝居の歴史から子どもの読書文化について考える」(浅岡靖央) 800円

『2019年度国際交流事業報告集 国際講演会「韓国の絵本作家パク・ジヨンチエの絵本を語る」(パク・ジヨンチエ、広松由希子、申明浩) 1000円

『2018年度連続講座報告集「幼い子どもの文学を考える」(二宅興子) 1200円

『2018年度講演会報告集「ふしぎの描き方―あまんぎみこ&富安陽子の世界」 1000円

『国際児童文学館紀要』1号～26号 1000円～19000円

『大阪国際児童文学振興財団研究紀要』27号～33号 13000円～14000円

そのほか、国際講演会報告集、論文集など多数あります。(ご希望の方はお問い合わせください。(価格は税別)

資料のご寄贈をありがとうございました

今年度も出版社、作家、研究者、同人誌サークルなどから、児童書や児童書に関する資料などの寄贈をいただきました。これらの資料は、永久保存および一般の利用に供するため、大阪府立中央図書館国際児童文学館に引き継ぎました。

(ご寄贈いただいた方々のお名前は別紙をご覧ください)

図 書	2,780冊
雑 誌	3,083冊
その他資料	1,347点
計	7,210点

寄付金募集のお願い!

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからの寄付金を募っています。ご協力をお願いします。

◆クレジットカードでご寄付いただけるようになりました。

ウェブサイトのSecureシカパルーの大阪国際児童文学振興財団ページをご覧ください。

◆ゆうちょ銀行 振替口座に払い込みください。

【口座番号】
00910-8-2820698

【加入者名】

一般財団法人
大阪国際児童文学振興財団
※他の金融機関からの振込の場合
店名：〇九九店(ゼロキョウキョウ店) / 店番：099 / 預金種目：当座 / 口座番号：02820098

◆令和元年度は、180件

3,366,204円のご寄付をいただきました。ありがとうございました。(ご寄付いただいた方々のお名前別紙を「ご覧ください」)

編集後記

「大阪国際児童文学振興財団レポート第10号」をお届けいたします。当レポートでは、令和元年度に実施しました主な事業を掲載しています。公式の事業報告、決算報告はホームページで公開しています。

図書資料の寄贈・寄付金・各種の事業協力など、皆さま方のご支援・ご協力に深く感謝いたします。引き続き皆さま方のご支援をお願い申し上げます。同時に、当財団の運営について、忌憚のないご意見をお願い申し上げます。